

天長祭齋行

皇統の無窮と 聖寿の萬歳を祈念して



四月二十九日の午前十一時、天皇誕生日を奉祝する天長祭が厳粛に齋行された。齋館前より齋服に威儀を正した齋父宮司以下神職が参進、修祓の後、本殿にて

四月二十九日の午前十一時、天皇誕生日を奉祝する天長祭が厳粛に齋行された。齋館前より齋服に威儀を正した齋父宮司以下神職が参進、修祓の後、本殿にて

各地奉斎宗像神社春季例祭

社運隆昌、無事故安全と 社員の無病息災を願って

新出光石油株式会社

福岡市に本社を置く新出光石油株式会社(代表取締役社長長出光豊氏)の社屋に鎮座する「新出光石油宗像神社」の昭和六十三年春季例祭が、桜花爛漫の四月十八日午前十一時より厳粛に齋行された。

同神社齋典には当天社から宇都宮権宮司以下二名の神職が齋員として出向奉仕、出光豊社長、若杉健太郎会長、河根裕、川口秀祐副社長以下役職者全員が参列された。

定刻の十一時、同社五階の神殿の間に参進、開式の辞の後、修祓の儀を行い、続いて宇都宮権宮司による昭

代に世界の平和の基を築かむ」と祈念される御心を歌ったのである。

当日は生憎の雨天であったが、祭典には地元元総代・御病氣平癒報 齋並びに米寿 奉祝の祝詞が 厳かに奉上げられた。

引き続き、 引続き、 陛下の御慶で、 日本紀元二千 六百年奉祝記 念に制定され、 た浦安舞が、 士軍委の当大臣様より 奉納された。

天地の神にぞ祈る 朝風の海のように 波たなぬ世を この神樂歌は陛下の万

和六十三年度の新出光石油(株)、新光商事(株)、新出光不動産(株)三社の社業繁栄・安全と社員の幸福とを願う祝詞が、朗々と厳かに奉上げられた。齋主玉串拝礼に続き、新出光社長が全社を代表して玉串拝礼を行い、滞りなく閉式の辞となった。

引き続き別室に於て直会の儀が和やかに催された。当日は早朝より風雨で強く祭典開始直前までは雨であったが、閉式の辞と共に雨も止み、陽春の太陽が雲間より広がる絶好の祭典日となった。

宗像大社の御祭神を祀る新出光石油宗像神社は、同社の創業者である故出光弘翁(昭和四十九年六月十三日没)により旧本社(福岡

せに奉らざるを希望します」と力強く張りのある御声で続いて、豊明殿に於て開催された祝宴の儀にご出席され、陛下は国会議員ら約四百六十人を前に、この機会に、国連の進展と、国民の幸福を祈ります」とお言葉を送られた。

陛下は今年で満八十七歳のお迎えになられ、歴代、天皇の最長寿の歴史を刻まれておられると共に、激励の昭和を歩まれ、今日の繁栄をもたらされた、この御聖徳を深く認識し、心から御祝いの誠をささげたい。

第五回宗像大社春季奉納盆栽展開催

五月一日より五日迄、第二階には、花もの、松柏類、水石等種々四十八席が展示された。鮮やかな松柏類の中に花ものがまじり、一段と鮮やかを増している。

今回は特別に、ふじが会場正面に二階展示されたが、蕾も一日とすくすく、最後の五日には暖かさも手伝って、美事に開花し、参拝者に楽しませた。

宗像地区は団地造成等に人の為に奉仕出来る、真の日本人を育成しようとの目的で、神前である宗像大社内に進んで勉学に勤めようとする青少年を対象に始まった制度である。

奉告祭が、今年度宗像郡市内の中学校十校より選ばれた二十名の奨学生と父兄の参列の下、儀式に於て、この奨学金の授与式が行われ、去る二十九年、皇太子殿下、同妃殿下の前、御成婚を祝し、当大社の記念事業として、世の為、

宗像大社奨学金 受給生奉告祭

新緑の若葉萌える四月二十九日、天長祭に引き続いて、宗像大社奨学金受給生奉告祭が、今年度宗像郡市内の中学校十校より選ばれた二十名の奨学生と父兄の参列の下、儀式に於て、この奨学金の授与式が行われ、去る二十九年、皇太子殿下、同妃殿下の前、御成婚を祝し、当大社の記念事業として、世の為、



この一年に一度の例祭に先立ち、本社では新年々頭にあたり、社長以下全役員が当社に参拝され、新年の社業繁栄と無事故安全、並びに社員の無病息災を祈念する行事が、創業以来続いている。

出光興産(株) 門司油槽所

陽春の去る四月八日、午前十一時より、出光興産株主の御祭典日和となった。神殿の御屋根、玉砂利、神域を取り囲む緑豊かな樹木の若葉が、春の陽光に眩いばかりに輝き、いつそこの

三十六歌仙扁額(三) 天正年間奉納

楽松子



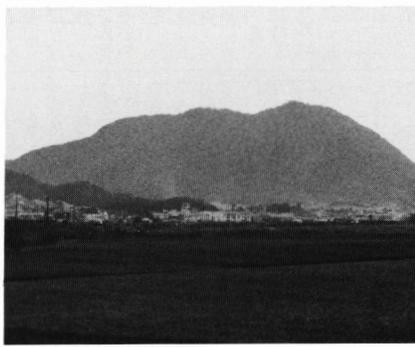
室町時代の前半約一〇〇年の間は、世の中も安定した社会であったが、応仁の乱の勃発とともに社会もみだれ、それをさかんにして、後半の約一〇〇年間は、波瀾万丈の時代へと大きく変化していった。この為、当盆裁展への出品も最近では狭き門となりつつある。

五日間に亘った盆裁展も、雨天の日があったものの、概ね五月晴れの天候に恵まれ、多くの熱心な参拝者で賑わった。

半年後の秋の盆裁展には、更に充実した作品を出品する旨約し、五日後刻には搬出、盆裁展を終了した。

奉告祭終了後、齋館に於て受給生に、宮司より受給書が授与されたが、どの顔も緊張した中にも希望に溢れた表情であった。尚、今年度の受給生は次の通りである。

宗像智子(光陵高校) 占部昭彦(香椎工業高校) 酒井龍哉(光陵高校) 黒土智美(青山女子高校) 田上竜太(北九工専専科) 井上達也(北九工専専科) 松尾一由(香椎工業高校) 高橋結里香(東海第五高校) 藤原 淳(福岡高校) 藤田あゆみ(宗像高校) 石田美和(筑紫女学園高校) 山田 亨(光陵高校) 久原 亨(光陵高校) 中村直樹(水産高校) 平野里江(宗像高校) 中村美加(宗像高校) 以上



大宮司貞貞も山頂部に築城を行い、そこで居住している。これが後に萬ヶ嶽城と呼ばれる所である。ここからは、宗像一円が一望のもとに見渡すことが出来る、宗像市赤岡の城山(三六九メートル)、當時は筑前国宗像郡赤岡庄であり、この山頂でもう有利な点があったと思えるが、一方、ここからも見通されるという危険性も多く持っていたであろう。しかし、その当時の山城が、石垣や土塁が少なく、山崖を利用した構築であった。いわゆる破片が多き散乱している。宗像を一望できる頂から遠くを見ながら、往時を振り返りつつ、懐かしく思われる。これは現在も登山道が整備され、宗像の家族連のハイキングコースとして楽しまれている。山裾には福岡教育大学があり、校舎の横

に登山口が開設されている。山頂から北に目を転じると、四塚連山と呼ばれ、山岳が連なっているが、各山とも一箇体ごとに分立している。この状況を遠くからながめると、丁度平らな所にながめられお碗を伏せたよな山景である。

氏貞が城山に築城を開始したのは永祿四年(二五六)に城を築き、山城の館を構築している。従来の平地の「館」が、山頂へ登っていった。望楼であった小さな屋敷をともなった居住区に変更された。そこで、生活様式のものも一変してきたといえる。

大宮司貞貞も山頂部に築城を行い、そこで居住している。これが後に萬ヶ嶽城と呼ばれる所である。ここからは、宗像一円が一望のもとに見渡すことが出来る、宗像市赤岡の城山(三六九メートル)、當時は筑前国宗像郡赤岡庄であり、この山頂でもう有利な点があったと思えるが、一方、ここからも見通されるという危険性も多く持っていたであろう。しかし、その当時の山城が、石垣や土塁が少なく、山崖を利用した構築であった。いわゆる破片が多き散乱している。宗像を一望できる頂から遠くを見ながら、往時を振り返りつつ、懐かしく思われる。これは現在も登山道が整備され、宗像の家族連のハイキングコースとして楽しまれている。山裾には福岡教育大学があり、校舎の横

